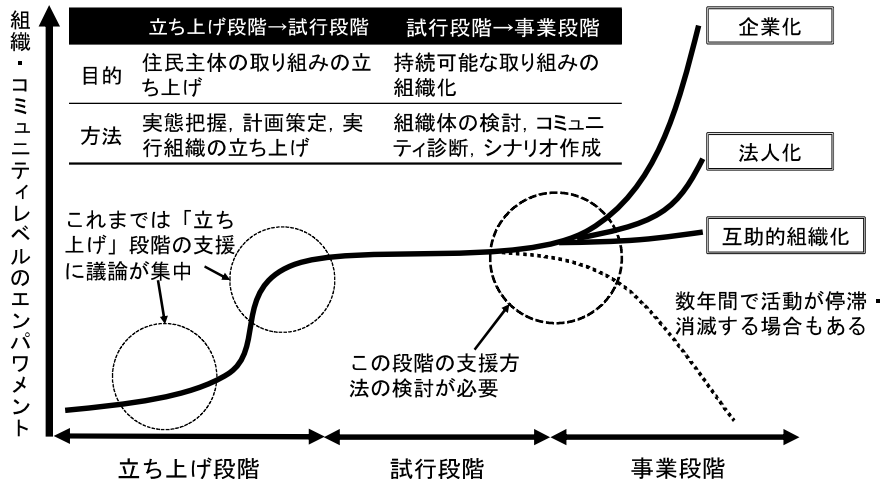




研究者名※	荻野 亮吾 OGINO Ryogo	学位※	博士(教育学)
所属※	人間社会学部 教育学科	職名※	准教授
連絡先	oginor@fc.jwu.ac.jp		
URL	http://www.		
researchmap※	https://researchmap.jp/ryogo_ogino		
研究分野※	教育学(教育学, 教育社会学), 社会学(社会学)		
研究キーワード※	生涯学習, 社会教育, 教育調査法, 社会集団・社会組織, 教育・学校		
共同研究・競争的資金等の研究課題	住民主体の地域づくりの「試行段階」におけるエンパワメント方法の開発・実装・評価(科学研究費・基盤B・研究代表者・2023年～) コミュニティ組織の実効性と持続性に関する比較事例分析(科学研究費・基盤C・研究代表者・2019年～2023年)		
社会貢献・産学官連携活動等	(株)和井田製作所 ものラボ・シニアアドバイザー(2022年～) 佐賀県立鹿島高等学校学校運営協議会委員長(2022年～2023年) 日本社会教育学会常任理事・ジャーナル編集委員長(2021年～) 日本公民館学会理事・年報編集委員長(2020年～2022年)		
受賞歴			

研究領域	教育学	(SDGs)	
研究テーマ※	住民主体の地域づくりの「試行段階」におけるエンパワメント方法の開発・実装・評価		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 本研究の目的は、住民主体の地域づくりの「試行段階」にあるコミュニティのエンパワメントを進める方法と評価方法を明らかにすることです。 近年、人口減少や超高齢化する地域の状況に応じて、住民主体の地域づくりが推奨されています。しかし、取り組みの「立ち上げ段階」の方法は精緻化されてきた一方で、様々な取り組みの「試行段階」を経て、持続性を担保するために企業化・法人化・互助的組織化等を進める「事業段階」に至るまでの条件や要素を明らかにできていない点に課題があります。</p> <p>この研究では、①先進事例の分析に基づくエンパワメントの方法の可視化、②地域コミュニティにおけるアクション・リサーチの実施、③アクション・リサーチに基づくエンパワメント方法と評価方法の提示、という3つの方法によりこの問題の解決を目指します。</p> <p>【応用例、研究の展望】 ・これから、地域づくりに取り組みたいと考える地域に対して、地域の実態分析からビジョンづくり、活動の立ち上げに至るまでのプロセスを設計するためのツールを提供することができます。</p>		



	<ul style="list-style-type: none"> すでに地域づくりに取り組んでいる地域においては、開発中のエンパワメント評価方法を用いて、これまでの取り組みを評価する方法や、今後の展望を立てていくためのツールを提供することができると考えます。 自治体・地区レベルで地域づくりに関する政策や計画策定を行う際に、ケアシステムの設計や、住環境の充実、社会活動の促進等に関して、先進的な自治体や地域の取り組みを紹介することができます。 <p>【研究方法の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地域の特性に合わせた地域づくり手法の開発(アクション・リサーチ) 分野横断チーム(教育学・都市工学・社会心理学・看護学等)での研究体制
<p>本研究関連 特許・論文等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 荻野亮吾『地域社会のつくり方ー社会関係資本の醸成に向けた教育学からのアプローチ』勁草書房, 2022年. 荻野亮吾・丹間康仁編『地域教育経営論ー学び続けられる地域社会のデザイン』大学教育出版, 2022年.
<p>共同研究・外部機関 との連携への期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> 住民主体の地域づくり手法の開発・評価に関する共同研究 超高齢社会対応のまちづくり・場づくりに関する共同研究 子どもの創発性を引き出すワークショップ・デザインに関する共同研究